

駅前には活気を取り戻そう

買物、通勤、お出かけ…に“便利”が一番

“疑惑”の「ウェルネス・タウン」構想
よりも先にやるべきが…

日本共産党

「とうきゅう」閉店惜しみ集まった市民(2010.8.31)

取手駅西口

東急ビル再開で元気を

日本共産党が実施した「市民アンケート」や「買い物アンケート」では、「東急ビル再開に力をつくしてほしい」、「駅前に新たな箱ものよりも東急ビルの活用を優先すべきだ」との声が圧倒的です。日本共産党は、取手市の消極的な姿勢をただすとともに関係者への働きかけを進めています。

藤代駅北口

整備促進で混雑緩和を

「駅」に関するアンケートを独自に実施。改善要望署名(945筆)を取手市に提出。駅前のバスレーンに送迎車の駐車帯が確保されました。まだまだ課題多い藤代駅北口周辺。道路整備、広場、街灯設置などに取り組んでいます。

取手駅西口駅前の「開発」計画が失敗を続けたのは…住民不在が原因

取手駅西口開発は、PFI方式による大型駐車場ビル建設計画(総事業費約50億円)、市民情報プラザ(約42億円)、芸術館(約60億円)、駅舎と一体の東西自由通路(約35億円)などの「取手“芸術の杜”創造プロジェクト」計画など、いわゆるバブル期発想の“箱もの”建設。これらの計画は、“税金のムダづかい”とする住民の声で、白紙撤回・中止させてきました。

これまでの失敗は、まちづくりの基本である住民参加をないがしろにしてきた“利権・談合”体質の歴代市長の姿勢にありました。

藤井市長は、これまで重ねてきた失敗に対する反省もなく、今度は「ウェルネス・タウン取手の創造」(総事業費約38億円)を住民不在のまま強行しています。



ウェルネス・タウン計画は“違法” “談合”疑惑も

地方の街づくりは、市議会で決めた最上位計画の「長期総合計画・基本構想(10年間の計画)」にそってすすめるものです。

取手市の場合、この「基本構想」で、中心市街地である駅周辺を芸術・文化・商業ゾーンと位置付けています。しかし、今、取手市がすすめている駅前の「ウェルネス・タウン」計画は、明らかにこれに違反する「計画」です。

そして、この計画の一部となっている駅ビルに隣接するC街区へ建設しようとしている「医療モール」をめぐる市有地の売却に「談合」の疑惑が表面化しています。住民からも監査請求が出されています。

12月議会でも大きな問題になりました。また、「ウェルネス・タウン計画」の中止を求める請願が住民から提出されました。



「談合疑惑」各紙が報道
12月13日

市議会でも賛否

真っ二つ

決議案採決
12対13

12月市議会

「取手駅北口C街区の事業提案公募区域内の公有地売却中止を求める決議」提案

提案者(斎藤勝久・加増みつ子・小泉真理子・朝比奈通子各議員)

＜斎藤勝久議員＞

12月13日本会議、提案者を代表して趣旨説明に立った斎藤勝久議員は、「公募(公有地売却)はまさしく市民を欺く行為…一事業者のみの応募で、それを「最優秀事業提案」と言っているのを見ると、開いた口がふさがらない」と厳しく批判、さらに「…不透明な経緯で処分するのを看過したのでは、議会の権能を放棄したことになる」と趣旨説明。

7月臨時市議会

市長提案の「ウェルネスタウン取手の創造」の関係予算に反対討論

＜小泉真理子議員＞

7月28日、臨時議会本会議、小泉真理子議員は、「取手市は子どもを放射線から守るために…」と「ウェルネスというなら、子供を含めた本物のウェルネスを…」と「放射線対策のための取り組みが優先されるべき」と反対討論。

日本共産党は提案します

- 取手駅西口前開発は、新たな箱もの建設よりも「旧東急ビル」の再開を優先する。駅前への必要な施設建設は、「旧東急ビル」の活用を図る。
- 「旧東急ビル」再開は、商業施設を中心とし、必要な公共・民間の施設の導入を検討・協議する。
- 「旧東急ビル」はじめ空きビル・空き店舗(固定資産税減免等)対策を拡充する。
- 医療・健康・福祉(ウェルネス関係)は、駅前に施設よりも制度の拡充を図ること、関係施設は市民の身近な所に充実させる。
- 駅周辺の道路、駐車場、街灯などの整備とバリアフリー化の促進を図る。

明るい取手

2011年12月号外

発行:日本共産党取手市委員会
取手市井野3-19-6 TEL.72-7816

◆日本共産党の見解を紹介します。